

レジオネラ属菌に関する情報

どこにでもいる細菌です

「レジオネラ」近頃マスコミで毎日のように耳にする細菌群の総称です。県内を始め、宮崎、山形、静岡、愛知、東京など各地の浴場や病院で感染事例・死亡事故が報告されているほか、飲料水、家庭用の循環式浴槽の水や空調用の冷却塔で発見されて問題となりました。

レジオネラ属の細菌は、土中や河川・湖沼など広く自然界に存在する細菌で、暖かい温度と養分が含まれる環境があると、様々な場所で増殖する可能性を持っています。東京都の研究によると、ビルなどに設置されている空調用の冷却塔や貯湯式の温水器、公園などの噴水や池、浴場水や温泉水、ジャグジーなどからも菌が検出されています。

(出典：東京都健康安全研究センター)

感染の初期症状は倦怠感や発熱

レジオネラ属菌が原因となって起こるレジオネラ症は、大別して肺炎型とポンティアック熱型に区分できます。

肺炎型は、初期症状として全身倦怠、易疲労感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などに始まり、数日後に膿性の痰（たん）がみられるようになって、発病3日以内に悪寒を伴って高熱を発するようになります。適切な治療がなされないと発病から7日以内に死亡する例が多いとされています。

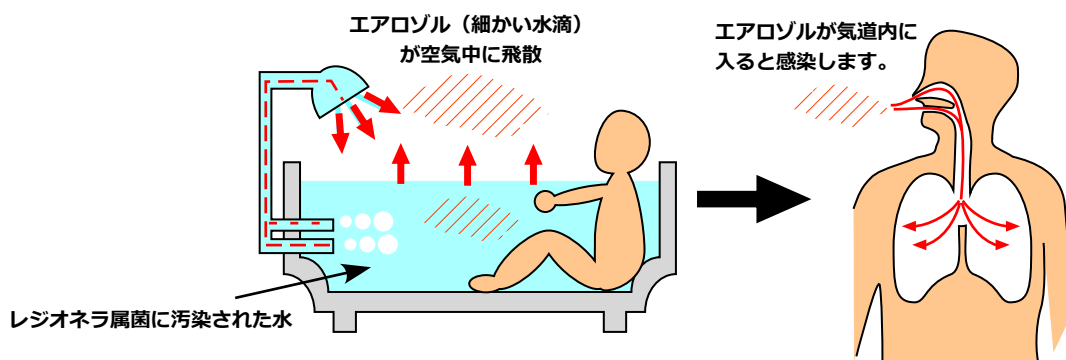
ポンティアック熱型は、1～2日の潜伏期の後、悪寒、筋肉痛、倦怠感、頭痛で発症し、6～12時間以内に悪寒を伴った発熱が出現します。多くの場合は、治療しなくても5日以内に回復しますが、他の病気がある場合は治癒が遅れ、健忘症や集中力低下などの症状が数カ月続くことがあるとされています。死亡例の報告はありません。

汚染された水滴を吸い込んで感染

レジオネラ症はレジオネラ属菌に汚染された、非常に細かい霧状の水滴（エアロゾル）を吸い込むことで感染します。

シャワーや気泡浴、ジャグジー、ジェット風呂、うたせ湯などを使用する公衆浴場や宿泊施設、病院施設・高齢者福祉施設、リハビリ施設、家庭用24時間風呂などの浴場設備から発生するエアロゾル、ビルの水冷式空調設備の冷却塔で発生するエアロゾル、公園などの噴水や滝から発生するエアロゾル、超音波式等の加湿器からのエアロゾルなどが感染経路となり得ます。これまでに、人から人へ、あるいは食べ物から人へという感染経路は確認されていません。

レジオネラは当初、病原性の強いものと考えられていましたが、最近では、健康な成人が発症することはまれで、幼児や高齢者、あるいは入院患者等の免疫力が低下している方がかかりやすいと考えられています。



きちんとした衛生管理で感染防止

◆浴用施設

浴用施設では換水、清掃、殺菌がレジオネラを増やさないポイントです。これを怠ると、場合によっては生命の危機に至る事故につながってしまいます。

換水は、衛生管理要領に示された頻度で実施しましょう。

清掃は、定期的に行い、それにあわせて浴槽などの殺菌と消毒を行いましょ。汚れが残っている状態で殺菌処理をしても、レジオネラ属菌は死滅しないことがあります。

殺菌は、塩素殺菌が有効です。しかし、速効性はありませんので、0.2～0.4mg/Lの遊離残留塩素を1日2時間以上保つことが必要です。温泉の泉質などによって塩素殺菌が困難な場合は、オゾンや紫外線を利用した殺菌方法もあります。レジオネラ属菌は、高熱に弱く、70℃以上の高温では1分以内に殺菌されます。貯湯タンクなどは高温を維持するようにすることも有効です。

あわせて、レジオネラ属菌の菌数の検査と浴用水としての水質検査を定期的を実施し、換水・清掃・殺菌消毒の記録と共に、それらの結果を3年以上保管しておくことが大切です。

◆その他の施設

空調用冷却塔やビルの給湯設備、公園などの噴水や池、加湿器等についても、十分な衛生管理を行う必要があります。空調用冷却塔の水中には、100～100,000個/Lものレジオネラ属菌が存在していることが知られており、イギリスでは1989年に冷却塔から飛散したエアロゾルにより、周辺住民の集団感染が発生しました。また、ヨーロッパやアメリカでは噴水などに起因するレジオネラ症の事例が報告されています。

これらの施設等についても、換水、清掃、殺菌・消毒と、定期的な検査を実施して、その記録を保管しておくことが大切です。